

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	廃プラスチック等リサイクル事業(再商品化実験事業)	会計	一般会計	事業No.	337	施策順No.	56-002	
		事業種別	政策・重点	予算科目	4-2-1-10-6			
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課			
施策	56 廃棄物の減量と適正処理			事業期間	開始	21	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・飯田市民 ・収集されたごみ						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできてない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	・分別を徹底実践してもらう ・廃プラスチック等対象物を再資源化する							
	対象をどう変えるか	飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		107400	105691	105036			
		ごみの総収集量(t)		23757	22515	22041			
	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	対象をどう変えるか	再資源化率 (再資源化するもの収集量÷ごみの総収集量)	33.5	33.7	35.6	35.2	35.7		A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		現在の埋立ごみのうち、モデル事業として廃プラスチック等を分別・収集しリサイクルすることにより、再資源化率の向上に寄与した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	現在埋立ごみに分類されている家庭ごみの中から、廃プラ等(プラスチック製品やプラマークのつかない容器、金属のつかない靴・靴・おもちゃ、CD・ビデオ等)の分別回収を行い、再資源化を実施する。排出物の適正処理をすすめる事業。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	分別回収・再商品化事業実施の可否を決定するため、いくつかの事項を検証するため引き続きモデル事業を行う。 1 再商品化の実際を視察 2 廃プラスチック等の分別回収と中間処理の方法を視察 3 禁忌品を除いた分別収集方法と収集頻度の検証のアンケート調査 4 分別学習会・リサイクル学習会の開催	1 視察か所 2 視察か所 3 アンケート配布 4 学習会等開催	1 4カ所 2 2カ所 3 486世帯 4 5回
23年度実施計画			

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他			0	
		一般財源	2,722	1,731	0	
		計(A)	2,722	1,731	0	
		正規職員所要時間		320		
		臨時職員等所要時間		40		
		人件費計(B)		1,187		
		トータルコスト A+B		2,918		

4 事業に対する市民や議会の意見

・積極的に協力する市民がいる反面、分別の煩わしさから非協力的な市民もいる。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①ごみを少なくする ②適正に処理・リサイクルされる	施策の成果指標又はムトス指標	ごみの収集量
				再資源化率
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	現在の埋立ごみのうち廃プラスチック等を分別・収集しリサイクルすることにより、埋立処分するごみを減量し、最終処分場の延命化に有効であることが示された。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	モデル地区5地区の協力を得て、より実証的な成果向上を図った。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	モデル地区5地区の市民の協力を得ることによりコストの削減を図った。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	法による一般廃棄物処理の義務者としての関与は適切である。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	①ごみの分別実施は市民が主体である。 ②分別についての説明。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	事業の目的は達せられたが、南信州広域連合による次期焼却施設更新の方針が示されたことにより、廃プラスチックの扱いについて検討する必要が生じた。		
	後期に向けた課題			

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input checked="" type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------